

介護ヘルパー長時間派遣

重度訪問 2市利用ゼロ

府内自治体 人数・時間に格差

ヘルパーが見守りも含め長時間付き添う障害者総合支援法の「重度訪問介護」について、京都府内の自治体で支給人数や支給時間に大きな格差があることが17日、京都新聞社の調べで分かった。舞鶴市と綾部市はゼロで誰にもサービスを支

給していない一方、京都市は324人が利用し、地域で1日24時間切れ目なくヘルパー派遣を受けて、1人暮らしをする重度障害者や難病患者がいる。

画などから、府内15市の重度訪問介護の支給実績(2017年度、一部は見込み値)をまとめた。

利用者数では、舞鶴市、綾部市がゼロ、宮津市と南丹市が各1人。12自治体で利用者が10人以下で、重度訪問介護の利用が進んで

いない。同サービスは、ヘルパーが連続8時間以上寄り添って、外出やトイレ介助、食事や洗濯など家事、体位交換などをサポートすること

を想定した制度だが、京丹後市では1人当たり支給時間が月26時間で、京都市の284時間と比べ運用実態にも大きな差がある。

舞鶴市障害福祉・国民年金課は「3月現在も支給はゼロだ。重度訪問介護の二

ーズはあつても、ヘルパーを長時間派遣することが地方では難しい。舞鶴には夜間にヘルパーを派遣している事業所もない。家族介護か施設入所の重度障害者が



重度訪問介護で毎日24時間派遣されるヘルパーと自立生活する岡山さん(京都市南区)

重度訪問介護の京都府内の市別実績

	利用者数/人	平均利用時間/月	1人あたり支給時間/月
宮津	1	201	201
京丹後	4	105	26
福知山	2	104	52
舞鶴	0	0	0
綾部	0	0	0
亀岡	5	831	166
南丹	1	240	240
向日	15	2,993	199
長岡京	17	3,869	227
宇治	10	2,144	214
城陽	4	186	46
八幡	2	106	53
京田辺	8	1,530	191
木津川	5	492	98
14市計	74		
京都市	324	92,224	284

している。舞鶴の実家で暮らししていた20代のころ、相談窓口を訪れたが、重度訪問介護のことを教えてもらえなかったという。

舞鶴市から支給されていたのは居宅介護(身体)で週3度、1回約1時間のヘルパー派遣。日中、夜間の大部分を家族の介護に頼らざるを得なかった。友人との買い物、花火大会：岡山さんが大切にしている日々の暮らし。だが移動支援2人介護を市に却下され、外出機会が減っていった。「重度訪問の制度自体が知られていない。自立生活を自指す雰囲気もなかった」と振り返る。(岡本晃明)

ほとんど」と話す。車いすユーザーの岡山祐美さん(39)は、京都市から毎日24時間、重度訪問介護の支給を受け、5年前から京都市内で1人暮らしを

